

建築系学生奨励事業

第 22 回 卒業設計コンクール展 開催

埼玉建築設計監理協会の法人化 30 周年を機に始まった卒業設計コンクール展は、一般社団法人へ移行した協会の主要な活動として位置づけられています。コンクールは、その趣旨に賛同いただいた多くの企業・団体、共催・協賛団体の協力により運営されています。

昨年は、コロナウイルス感染対策として、オンライン開催、公開 Web 審査を行いました。本年は作品を展示し公開審査を行っております。13 の大学の学部から 41 名が応募し、埼玉賞候補作品は 19 作品、自由テーマの作品は 22 作品となりました。

今後、埼玉県知事賞、準埼玉賞受賞の作品については、関連した自治体へのプレゼンテーションや展示を行う予定です。卒業設計での提案を基に、産官学が連携して地域の問題解決や賑わい創出ができることを期待しています。



□ 開催主旨

昨今の都市計画や建築デザインに於いても、ICT 革命時代にふさわしい斬新な発想が求められています。そのような中、新しい時代の第一線で活躍が期待される建築系学生の能力向上、育成を図る目的で、次代を先取した意欲ある作品を募集し、若い学生達の考える創造価値と熱意を奨励します。特に、当協会としては、「埼玉」を分析し、再構築を試みることに街づくりの活性化を図り、地域を変える起爆剤となるような夢溢れる作品を待っています。

□ テーマ、募集作品

(1) 埼玉をテーマとした作品（埼玉県知事賞対象候補）

(2) 自由テーマの作品

上記の分類による都市や建築デザインをテーマとした個人作品の卒業設計を対象とします。

□ 受賞者および作品

埼玉県知事賞 1 作品…テーマ(1) の作品の中で最も優れた作品（副賞として海外研修旅行目録・30 万円相当）

準埼玉賞 1 作品…テーマ(1) の作品の中で優れた作品（副賞として 5 万円相当の目録）

埼玉建築設計監理協会賞 1 作品…募集作品の中で最も優れた作品（埼玉県知事賞受賞作品を除く）
（副賞として海外研修旅行目録・20 万円相当）

準埼玉建築設計監理協会賞 1 作品…募集作品の中で優れた作品（埼玉県知事賞受賞作品を除く）
（副賞として 5 万円相当の目録）

<全作品対象>

特別審査員賞 3 作品…各大学の先生による審査とします（副賞として 3 万円相当の目録）

埼玉県住宅供給公社賞 1 作品…まちづくりを題材とした作品（副賞として 3 万円相当の目録）

さいたま住宅検査センター賞 2 作品…住宅を題材とした優れた作品（副賞として 5 万円相当の目録）

JIA 埼玉賞 3 作品…優秀な提案、建築家に相応しい作品（卒業設計を行った年度の大学学科の所在地が埼玉県内である応募者の中で優れた作品は本人の意思の確認の上、JIA 主催全国学生卒業設計コンクールに 3 作品程度推薦します。

JIA 埼玉賞は JIA 埼玉会員が独自に選出し、1 次審査を書類選考、2 次審査をオンラインによるプレゼンテーションにより選考いたします。

総合資格学院賞 2 作品…社会に飛び出す若駒のエネルギー溢る作品（副賞として 5 万円相当の目録）

日建学院賞 2 作品…来場者の投票により選ばれた作品（副賞として 5 万円相当の目録）

奨励賞 適宜

□ 審査員 作品出展校から各学部の先生 1 名、埼玉県（1 名）、さいたま市（1 名）

（一社）日本建築学会関東支部埼玉支所（1 名）、（一社）埼玉建築士会（1 名）、

（一社）埼玉県建築士事務所協会（1 名）、（公社）日本建築家協会埼玉地域会（JIA 埼玉）（1 名）

（一社）埼玉県建設産業団体連合会（1 名）、埼玉県住宅供給公社（1 名）

（一財）さいたま住宅検査センター（1 名）、当協会賛助会員（1 名）、当協会会員より数名

□ 主催 （一社）埼玉建築設計監理協会

共催 （一社）日本建築学会関東支部埼玉支所、（一社）埼玉建築士会、（一社）埼玉県建築士事務所協会

（公社）日本建築家協会埼玉地域会（JIA 埼玉）、（一社）埼玉県建設産業団体連合会

埼玉県住宅供給公社、（一財）さいたま住宅検査センター

協賛 （一社）日本建築学会埼玉支所、（一社）埼玉建築士会、（一社）埼玉県建築士事務所協会

（公社）日本建築家協会埼玉地域会（JIA 埼玉）、（一社）埼玉県建設産業団体連合会、埼玉県住宅供給公社

（一財）さいたま住宅検査センター、（一社）埼玉県建設業協会、（一財）埼玉県建築安全協会

（株）オキナヤ、生和テクノス（株）、松坂屋建材（株）、四国化成工業、総合資格学院、日建学院

大成建設（株）、和光建設（株）、大野建設（株）、（株）田中工務店、柏木建設（株）、吾妻工業（株）、（株）佐伯工務店、（株）島村工業

後援 埼玉県、さいたま市、テレビ埼玉



受賞された皆さん



埼玉県知事に説明する受賞者



埼玉県知事と受賞者を囲んで

準埼玉賞

東京電機大学未来科学部建築学科 今井 元
共有のすゝめ～共有を軸としてつながる生活の提案～

所有や消費が豊かさであった時代は、モノを大量に生産し、大量に消費することで人生の豊かさが生まれてきたが、体験や経験が人生の豊かさとなった現代において、それらはどのように生まれどのように広がっていくのだろうか。

本提案では利用できるモノの選択肢を広げることがコトの選択肢を広げ、コトを通じてヒトがつながり、その先でまた新たなコトを生み出すと考え、蔵造りの町並みという「モノ」から観光という「コト」を生み出してきた埼玉県川越市を舞台に、川越のまち並みの再考を行うと共に、それらの連鎖の始まりである「モノの選択肢を広げること」＝「モノを共有する生活」を支える建築を設計する。



共有のすゝめ

～共有を軸としてつながる生活の提案～

01. 背景と提案

1-1. 「モノとコトとヒト」



「モノからコトが生まれヒトとヒトがつながりさらなるコトが生まれる」

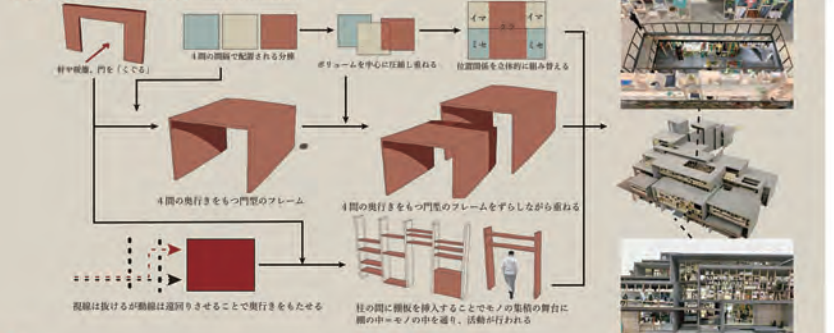
03. プログラム

3-2. 「まちに新たな動きを」



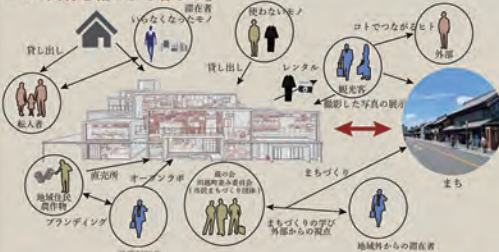
04. 建築操作

4-2. 「設計に落とし込む」 川越のまちでの基本的行為

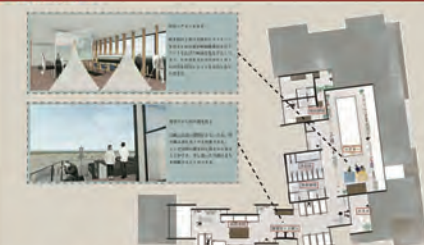


03. プログラム

3-1. 「共有を軸とする暮らし」



1階平面図



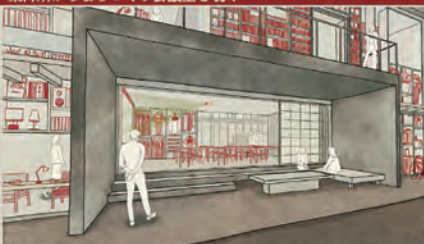
2階平面図



3階平面図



乗降所からまちづくり会議室を覗く



中央の吹き抜けを見上げる



宿泊者向け共有空間の様子



埼玉建築設計監理協会賞

工学院大学建築学部建築デザイン学科 富田 奈々
街の人がつくる予防医療の学校

本来、予防医療には病気になる前の一次予防、病気になっているときの二次予防、病気が回復した後の三次予防の三段階がありますが、現在は病院が担う二次予防が主流です。しかし、医師や看護師は治療や診察で手いっぱい、心のケアや運動管理、栄養管理といった日常的な生活のケアには手が回らないのが現状です。

そこで「街の人がつくる予防医療の学校」を提案します。

それは、医師とは違った健康に詳しい「街の先生」から教えてもらうことで、一次予防や三次予防へとつながりつつ、ここに集まる人たちがお互いに気に掛ける関係を築き、いつでも気軽に行きたくなるような人と場所がある、街の学校です。予防医療が日常生活に組み込まれた身近なものとなり、患者が主体的に学ぶことが出来る場所となります。

予防医療を見つめ直す

■提案する予防医療の学校との関係

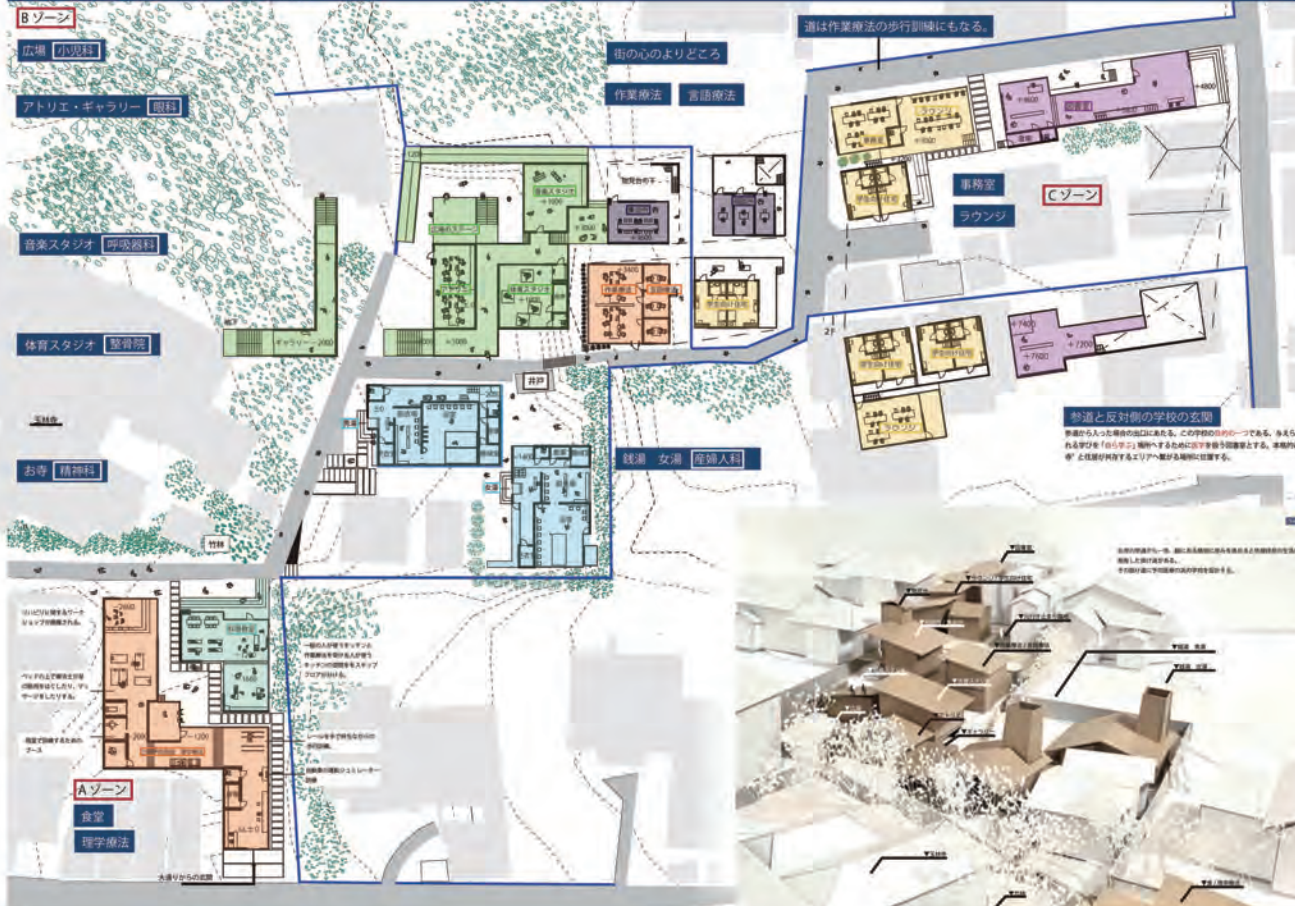


住民による学びの連なり

■提案する予防医療の学校での学びのサイクル



08 平面計画 配置した機能を街の健康ケアに置き換える

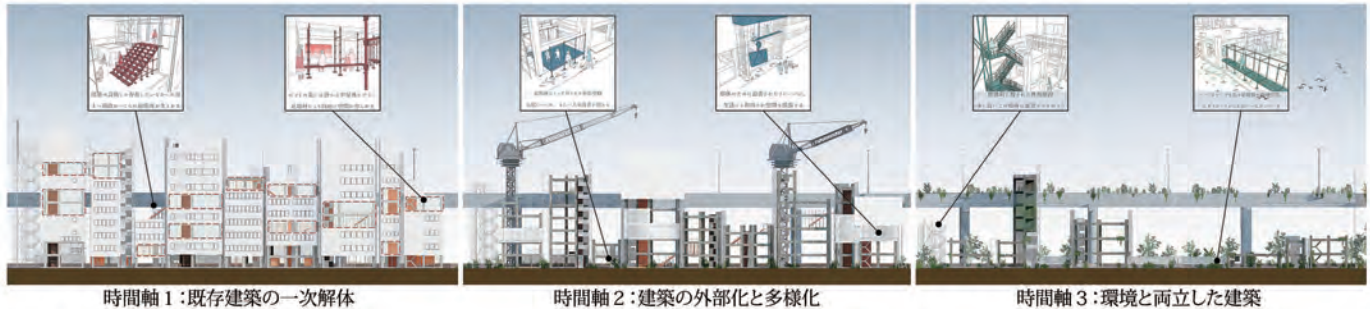


準埼玉建築設計監理協会賞

東京電機大学未来科学部建築学科 山内 峻平

トリムールティ建築手法
—解体プロセスの再設計による向環境的建築への転化—

建築は社会のインフラであるとした視点から、未来の社会、人、建築へ向けた建築の更新(長期的な解体)を提案する。解体プロセスの再設計により、建築利用は段階的に変化。時間をかけて空間は多様化し、向環境的建築へと転化していく。これより建築は創造・維持・破壊が混在した空間となり、多様な空間利用が想定されることから本提案を向環境的建築へのケーススタディと位置づけ、設計を行った。



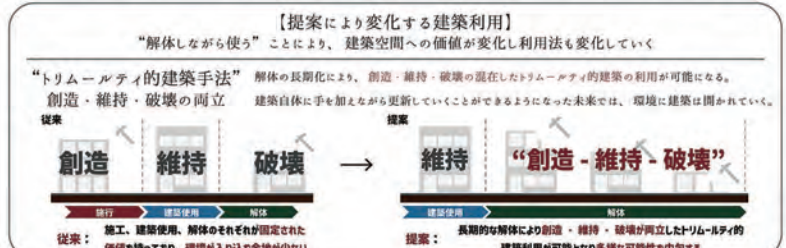
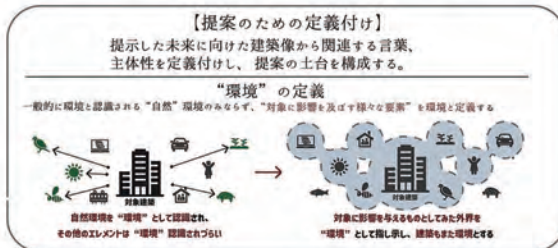
時間軸 1：既存建築の一次解体

時間軸 2：建築の外部位と多様化

時間軸 3：環境と両立した建築

1：未来へ向けた建築の更新

建築は社会のインフラであるとした視点から、未来の社会、人、建築へ向けた建築の更新(長期的な解体)を提案する。



3：トリムールティ的空間利用

解体プロセスの再設計により、建築利用は段階的に編み。時間をかけて空間は多様化する。

時間軸 1：既存建築の一次解体

～ 2037



時間軸 2：建築の外部位と多様化

～ 2052



時間軸 3：環境と両立した建築

～ 2067



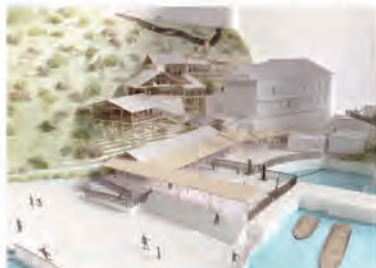
特別審査員賞

工学院大学建築学部建築デザイン学科 岩崎 涼香

つなぐしま

-琵琶湖に浮かぶ聖地竹生島と隠れ里菅浦で人々の拠り所を作り出す-

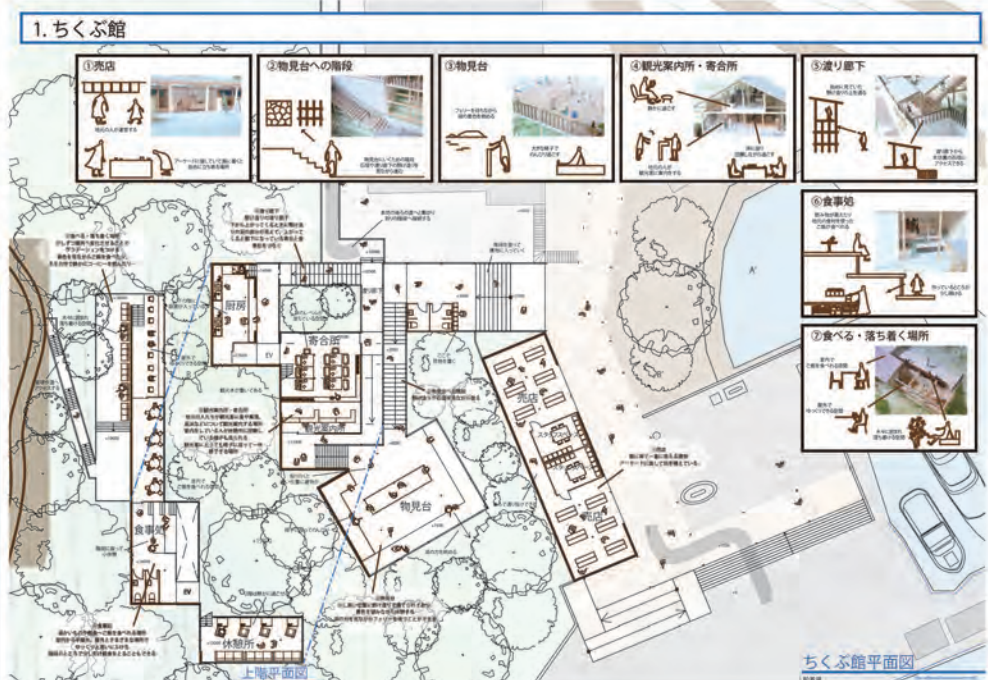
琵琶湖にある竹生島と長浜市の菅浦集落をつなぐことで、まだ生かされていないお互いの魅力を引き立て合い、地元の人・子供たち・観光客をつなぐ、「しくみ」と「施設」を提案する。地元の人と関わる新たな観光の在り方と、この土地が持っている魅力、この土地でしかできない体験をもっと多くの人に届けることで、地元の人にも観光客にも愛され、何度も訪れたいと思う、拠り所となるような場所を目指す。



竹生島



竹生島港



ちくぶ館平面図

特別審査員賞

日本工業大学建築学部建築学科 菅野 颯太

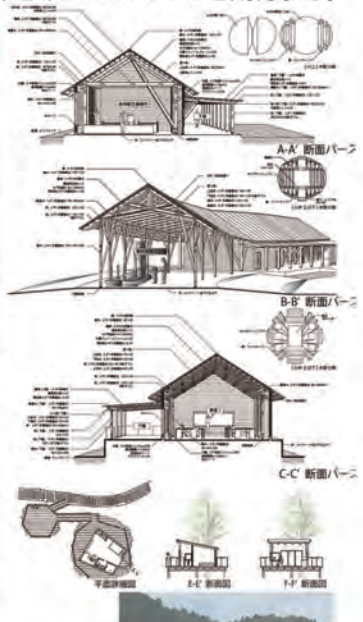
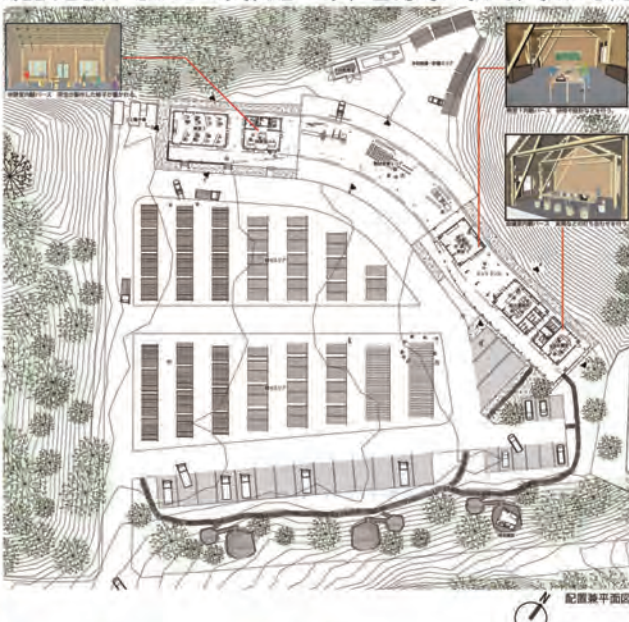
新・多摩木材センター

木にまつわるなりわいを学び、育む場

東京都では、公共施設や商業施設を中心に中大規模の木造建築が増加してきている。一方で、林業・製材業における高齢化の進行や後継者不足といった、木造建築をめぐる根源的な問題は解決されていない。また、木造建築を学び、体験する場を充実させる必要もあると考える。上記の問題を踏まえ本計画では、原木市場として利用されている多摩木材センターの建て替えを通して、木材や木造に関する川上（林業）、川中（製材）川下（建築）の各分野を一貫して学べる生産・販売・教育施設を提案する。同じ敷地に各エリアの施設を設けることで交流を生み、各分野が教え、教わる関係を築いていくことを期待する。

新・多摩木材センター

木にまつわるなりわいを学び、育む場



南側立面図



D-0' 断面図



特別審査員賞

ものづくり大学技能工芸学部建設学科 須永 月乃

A TSU R A E R Up Cycle -埼玉県加須市の古民家の継続的改修計画-

計画地の埼玉県加須市には現在、約4,400件の空き家があり、増加傾向である。推定築200年の空き家の古民家は、伝統的農家の間取り、養蚕や馬と人が共に暮らした痕跡があり、物に溢れる。「あつらえ」られた他者依存の大量生産品を購入、消費するだけでなく、自ら取捨選択する「あつらえる」技術で既存物を日常的に活用する環境配慮的なライフスタイルが重要になる。元刑事の施主は壊れたものを修理・再利用する観察眼に優れている。筆者らも研究室で日々楽しみながら実験的にDIYを行い、物を大切に、自分流に「あつらえる」点で共通する。一方、施主と学生では空き家の古物を扱い、かわいいと思うか等の感覚が異なる。しかし、アップサイクル(以下UC)的に事物を多角的な視点や感性で捉えることで、世代や時空間を架け渡す可能性がある。したがって、本計画では、学生自ら鑑識的な建物調査や試作を進め、部分的なUCから全体の改修を時限なく目指す継続的な改修を試みる。



埼玉県住宅供給公社賞

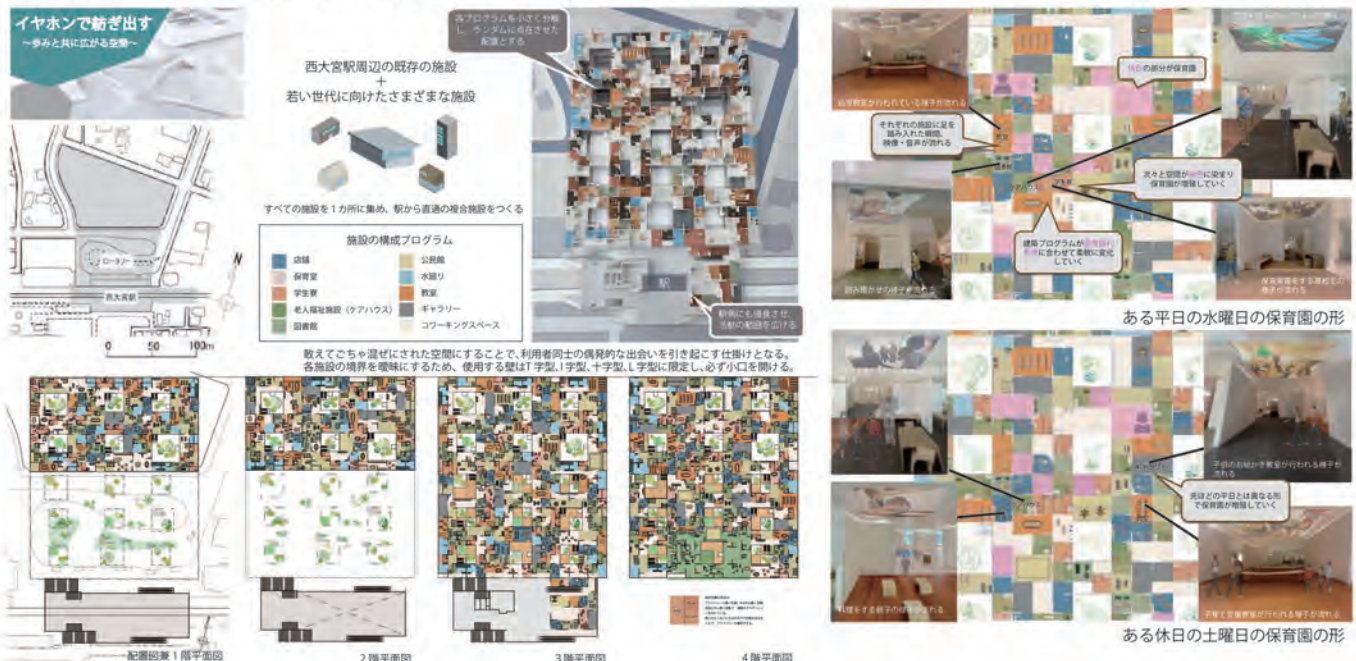
実践女子大学生生活科学部生活環境学科 山岸 幹子

イヤホンで紡ぎ出す ~歩みと共に広がる空間~

私が日々利用する、さいたま市西区西大宮一丁目にある西大宮駅は、開業から13年と比較的歴史の浅い駅である。駅の開業により、周辺地域には若い世代の住民が集まり、人口比率は30代以下が約半数を占めている。近隣に学校施設が多いことから、駅利用者は学生を中心とした若者が最も多い。

そんな中、移動時の電車内や歩行中にイヤホンを使用する若者を多く見かける。スマートフォンで手軽に音楽を聴ける現代で、彼らにとって日常的にイヤホンを使用する行為は当たり前のことであり、生活に欠かせないツールとなっている。

そこで、若者の集う西大宮駅周辺に、イヤホンを使用することで日々、建築プログラムが利用者ごとに柔軟に変化し、そして、空間の認識やポテンシャルに流動性をもたらし、さらに、若者と高齢者世代を繋ぐ新たな多世代交流の場を提案する。



さいたま住宅検査センター賞

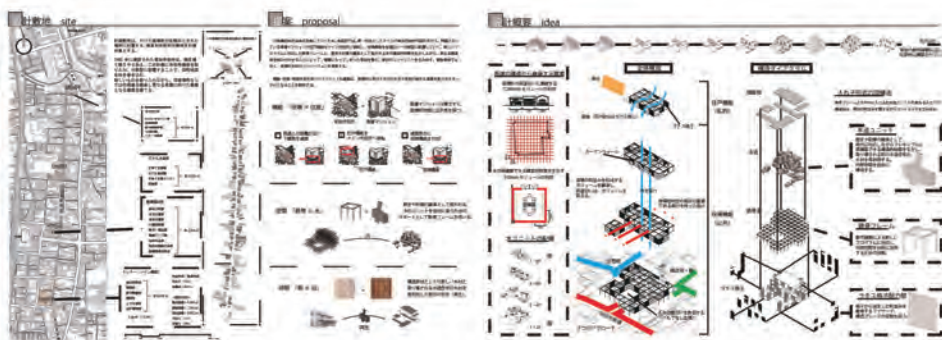
芝浦工業大学建築学部建築学科 天野 稜

草加市役所コンバージョン計画 -旧宿場町ならではのハイブリッド建築の提案-

宿場町草加は、人々を迎え入れ、送り出す「もてなし」の精神に育まれた日光街道第2の宿場町であった。しかし、現在の宿場町草加は、高層マンションが乱立し、画一化する都市の高層化によって、根本的に街道を性格付けてきた公共性が崩され、旧宿場町ならではの歴史的価値の消失が問題となっている。

そこで、画一化する都市草加に目を向け、歴史や記憶を継承することを目的とし、草加市役所を第一歩目として設計する。市役所（公共）と住居（私的）を複合させ、異なる構造体を組み合わせながら、歴史的価値の消失に歯止めをかける。

建物単体としてではなく、街全体を刷新するような宿場町コンバージョンとして、持続可能な旧町ならではの機能・空間・時間を統合したハイブリッドな建築を提案する。



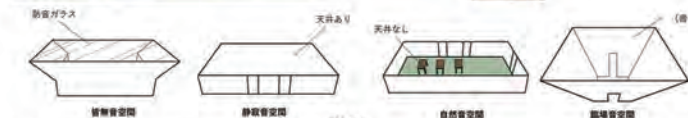
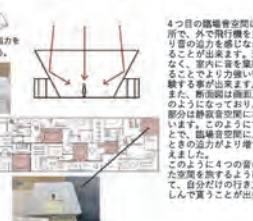
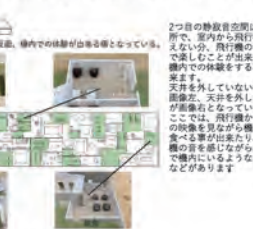
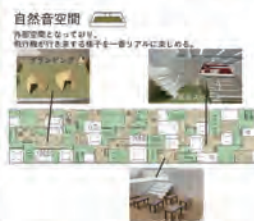
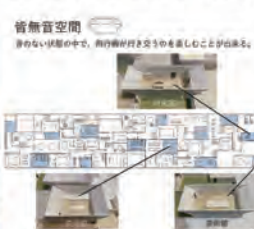
さいたま住宅検査センター賞

実践女子大学生生活科学部生活環境学科 池田 里穂

エアプレーンサウンドスケープ

大きく、迫力のある音を響かせながら、低い高度で直上を飛び交う、様々な自衛隊機の力強さを体験できる入曽多目的広場（埼玉県狭山市）は、とても魅力的な空間であり、定期的に行きたくなるような私のお気に入りの場所である。

しかし、現在は、飛行機の写真を撮影しに来るなどのごく少数の人にしかその魅力を還元出来ておらず、非常にもどかしい状態である。そこで、私は飛行機の魅力を最大限に活かせる、「臨場音空間」、「自然音空間」、「静寂音空間」、「皆無音空間」に大別された複合施設を設計し、その機能が飛行機の迫力や臨場感と融合することで、今までにない、新たな魅力を体験してもらえそうな場所を目指す。そして、私のように日常的に飛行機の音に慣れている市民の人はもちろん、そのような場所に住んでいない人でも埼玉に来たらここに訪れたいと思ってもらえるような新たな建築を提案する。



今回は、基地の隠されたポテンシャルを市民の人に還元できるような、宿、研究室、飲食の場などが入っている複合施設を設計します。この建物の中には皆無音空間、静寂音空間、自然音空間、臨場音空間という4つの音が違う空間があります。建物の形や高さもばらばらで、皆無音空間は4m、静寂音空間と自然音空間は2m、臨場音空間は5mになっています。

J I A 埼玉優秀賞

芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 井上 紗愼
移りゆく風景と水族館
- 場所性の再編による「伊豆・三津シーパラダイス」改修計画 -

「その場所らしさ」を感じる風景や空間体験、つまり「場所性」はまちの資源であるが、時の流れのなか変化した風景に埋没していく。そこで、新しい建物や空間をこれからの場所性になりえるものと解釈し、「その場所らしさ」を更新した風景のあり方を考えた。本提案では、静岡県内浦地区にある水族館「伊豆・三津シーパラダイス」のブラックボックス化している場所性を、まちの住民や観光客に対して拓く。水族館の場所性はまちの場所性として新たに認識され、新しいまちの風景と日常が生まれる。

06 PLAN
これからの風景と活動

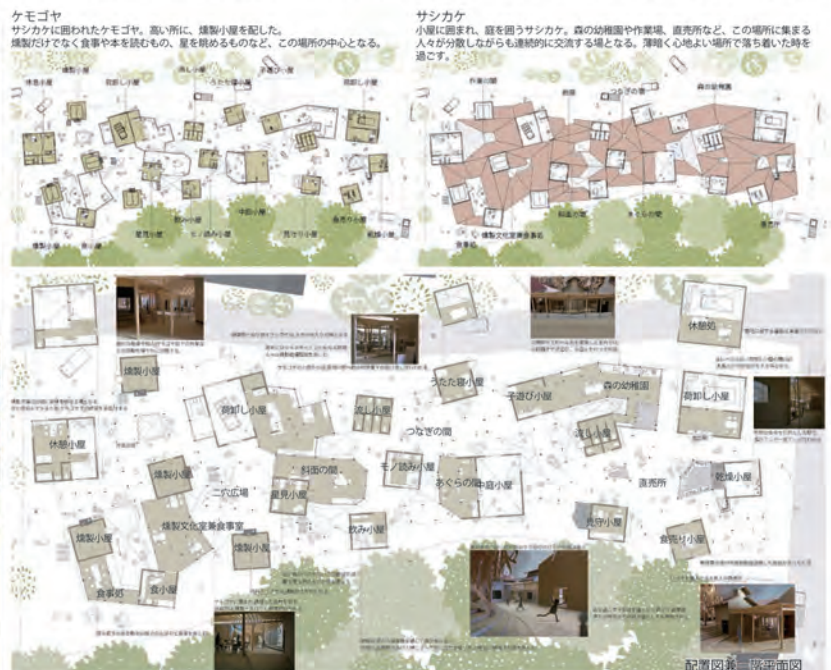
街と繋がる水族館の2階（4GLフロア）では、2つの橋によってまちと繋がれた人々の活動が水族館の場所性を感じながら行われる。



J I A 埼玉優秀賞

日本工業大学建築学部建築学科 中山 涼雅
ケモゴヤとサシカケ 燻煙乾燥文化がつなぐマチとムラの暮らし

茨城県龍ケ崎市では、古くからの農村と20世紀後半のニュータウンが交わらずに隣り合っている。「食」を通してこれらを見ると、農作物を育て生産の場としての「ムラ」と食材や加工食品を購入する消費の場としての「マチ」の姿が浮かび上がる。それらは、壁に閉ざされた大きな食品加工工場が繋がれているが、食材の調理や加工、食べる事を通して人々が交流する可能性を模索した。そこで、燻煙乾燥調理とこの地域に残る米菓小屋と呼ばれる煙草の葉の乾燥小屋に着目した。小屋内が煙草の葉、サシカケ屋根が人の作業場で、昼夜問わず生産が行われていた当時は、近所の方と団欒しながら火の番をしていた。こうした、人々が団欒しながら調理する場を農村地域の一面に計画することで「食」を通して「マチ」と「ムラ」の人々が集う場を作ることとした。



総合資格学院賞

ものづくり大学技能工芸学部建設学科 浦上 龍兵

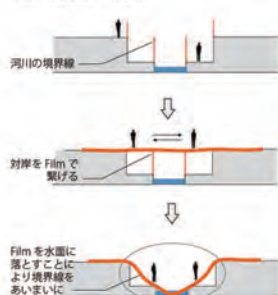
RE:VER.川の記憶媒体としてのFilm 元荒川を軸とした地域活性化計画

河川は長い歴史の中で自然を記録し、まちを形成する。そして人の記憶の一部となる。今回の計画地である元荒川は、現在、護岸整備が進められているが、人工的に造成された川沿いには水とまちの境界線を感じた。

そこで本計画では、元荒川をまちへ浸透させ人を川へ誘導することにより、空間の連続性を同時知覚することで人のビオトープ（生物群集）を形成し、コミュニケーションからなる地域活性化を図る。

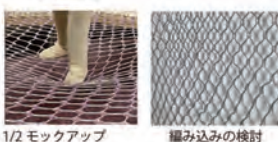
ダイアグラム

川によりできる対岸をFilmで繋げつつ、水面に落とすことで境界線をやわらげ空間に融和性を与える。



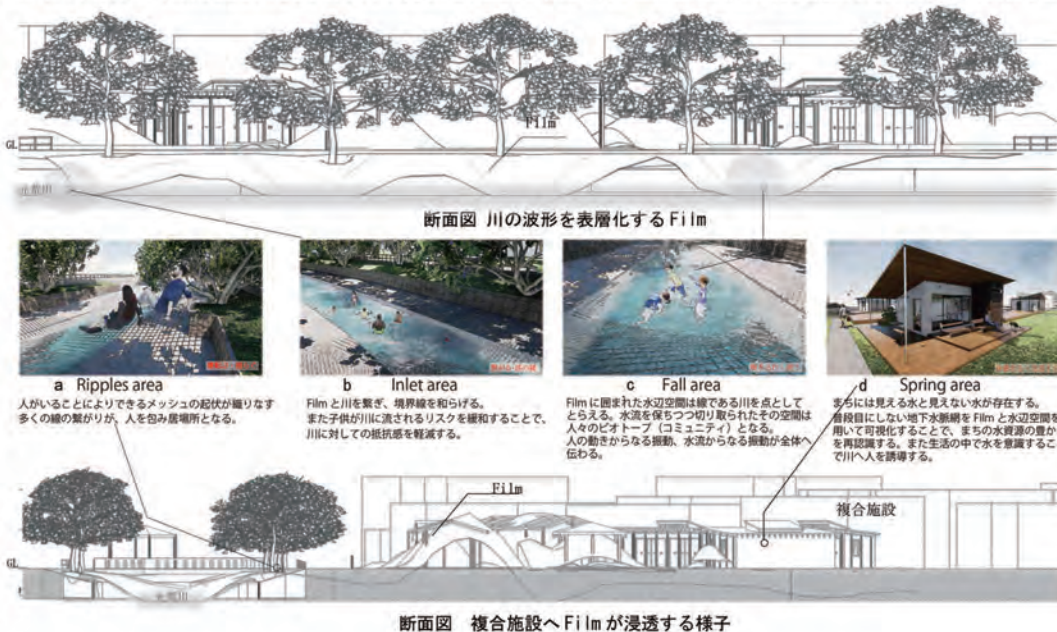
Film 概要

Filmは耐荷重・耐久性を考慮し、ステンレスワイヤー（2mm）をビルコーティングしたものを採用。編み込みによる柔軟性、弾力性の変化を検討し、1/2モックアップを制作した。



空間構成（事象）

川の持つランドスケープや人のコミュニティとしてのポテンシャルを引き出すため、事象の異なる4つの空間を設けた。水の事象を建築化し、それにより人の行動を誘発させる。



総合資格学院賞

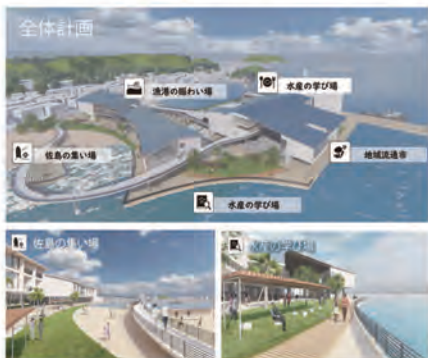
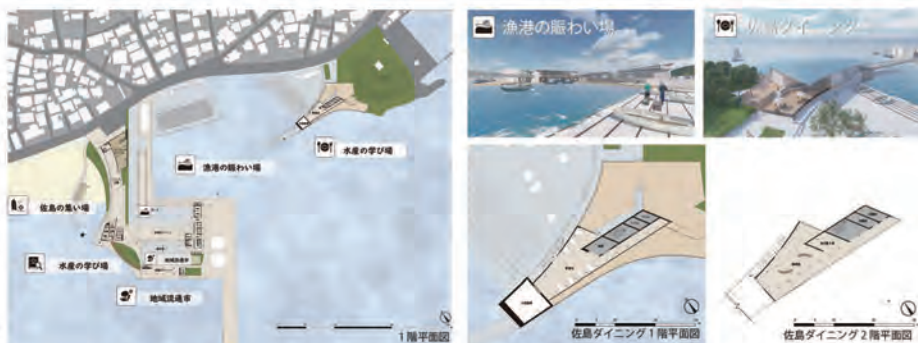
芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 小森 佳佑

新海景 - 漁港がもたらす海辺の賑わい空間 -

国内水産業の衰退に伴い、漁村文化が失われていく現状に着目した。漁港が地域に対して閉ざされている空間的特性を問題視し、漁師と地元住民、外部からの観光客が交流できる余暇空間を設計した。漁港の機能を維持しつつ、敷地全体に回遊動線を通すことで人々の往来の自由を確保した。漁港内の自由な移動が可能になることにより人々の滞留が起こり、多様な活動が展開されていく。それによって、生業の営みと人々の賑わいが共存することで新たな海辺の日常風景が生まれていく。

企画設計

漁港を海辺の憩いの場や文化交流、食市としての機能を加えることで市民が気軽に訪れ、町の中の居場所となるような空間をつくる。日常の出来事の中で水産業について深く知ったり、漁師文化にふれる機会を創出する。



■受賞者ならびに出品者

埼玉県知事賞	高宮 弥	日本工業大学建築学部建築学科
JIA埼玉最優秀賞		わたる、であう、つむぐ。歩道橋がつくるまちの新たな風景
準埼玉賞	今井 元	東京電機大学未来科学部建築学科
		共有のすゝめ〜共有を軸としてつなげる生活の提案〜
埼玉建築設計監理協会賞	富田 奈々	工学院大学建築学部建築デザイン学科
		街の人がつくる予防医療の学校
準埼玉建築設計監理協会賞	山内 峻平	東京電機大学未来科学部建築学科
		トリムールティ建築手法 一解体プロセスの再設計による向環境的建築への転化一
特別審査員賞	岩崎 涼香	工学院大学建築学部建築デザイン学科
		つなくしま 琵琶湖に浮かぶ聖地竹生島と隠れ里菅浦で人々の拠り所を作り出す-
特別審査員賞	菅野 颯太	日本工業大学建築学部建築学科
		新・多摩木材センター 木にまつわるなりわいを学び、育む場
特別審査員賞	須永 月乃	ものづくり大学技能工芸学部建設学科
		A TSU RA E R Up Cycle 一埼玉県加須市の古民家の継続的改修計画-
埼玉県住宅供給公社賞	山岸 幹子	実践女子大学生活科学部生活環境学科
		イヤホンで紡ぎ出す〜歩みと共に広がる空間〜
さいたま住宅検査センター賞	天野 綾	芝浦工業大学建築学部建築学科
		草加市役所コンバージョン計画 一旧宿場町ならではのハイブリッド建築の提案-
さいたま住宅検査センター賞	池田 里穂	実践女子大学生活科学部生活環境学科
		エアプレーンサウンドスケープ
JIA埼玉優秀賞	井上 紗慎	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科
		移りゆく風景と水族館 一場所性の再編による「伊豆・三津シーパラダイス」改修計画 一
JIA埼玉優秀賞	中山 涼雅	日本工業大学建築学部建築学科
		ケモゴヤとサシカケ 燻煙乾燥文化がつなぐマチとムラの暮らし
総合資格学院賞	浦上 龍兵	ものづくり大学技能工芸学部建設学科
		RE・VER.川の記憶媒体としてのFilm 元荒川を軸とした地域活性化計画
総合資格学院賞	小森 佳佑	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科
		新海景 一漁港がもたらす海辺の賑わい空間一
日建学院賞	川島 一純	東洋大学理工学部建築学科
		街の骨格に織りなす
日建学院賞	横田 仁哉	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科
		動的秩序の現れ 一オープンスペースを主体とした都市の代謝手法-
奨励賞	石村 真祐子	日本大学生産工学部建築工学科
		檜玄木舎-大径材から森林とまちを繋ぐ木の学舎-
	岩崎 啓成	日本工業大学建築学部建築学科
		リム・パブルヴィッラ 建築学生がつくって暮らすパラサイトルーム
	岩淵 拓真	東京電機大学未来科学部建築学科
		纏わる螺旋路
	奥墨 鴻太	東洋大学理工学部建築学科
		窓と暮らす 現代都市の集合住宅における境界の再考
	川原 隆平	日本大学生産工学部建築工学科
		天を仰ぐ 〜最期に踏んだ土地〜
	木田 琉誓	日本大学生産工学部建築工学科
		地を纏う庁舎〜市役所を開き市民の集う場所へ〜
	小松 奎瑚	東洋大学理工学部建築学科
		土を感じる 左官伝承
	櫻井 葉菜	ものづくり大学技能工芸学部建設学科
		埼玉県鴻巣市の防災拠点を活用した避難所計画
	重松 慧	東京電機大学理工学部理工学科
		都市型寺院プロジェクト 現代都市における地域と寺院の新たな関係の構築
	嶋崎 敦也	東京電機大学未来科学部建築学科
		蝙蝠観察空中庭園
	清水 拓真	日本大学生産工学部建築工学科
		味わう。〜越谷駅歴史的空間再編計画〜
	末久 公平	ものづくり大学技能工芸学部建設学科
		フィリピンの水害多発地域におけるスカベンジャーのための施設
	高橋 恒洋	日本工業大学建築学部建築学科
		離島に潜む建築の可能性 喜界島の伝統・風土を継承し次世代に繋ぐ
	千葉ほのか	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科
		Living Gardens
	轟 花弥	実践女子大学生活科学部生活環境学科
		2種のユニットを行き交う生活
	平田 凌雅	東洋大学理工学部建築学科
		四面看板建築 一建築の自律性と他律性の複合的思考-
	廣田 紫苑	ものづくり大学技能工芸学部建設学科
		寄生者たちのコロニー 東京都練馬区の生産緑地跡における集合住宅の提案
	松下 優希	日本大学生産工学部建築工学科
		降り注ぐ厄災の記憶〜東京大空襲を忘れない〜
	松本 大輝	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科
		輪廻転生
	三森 公威	ものづくり大学技能工芸学部建設学科
		共働 一ケヤキ一
	山崎 崇平	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科
		農と人の再育所
	山田ちなつ	日本工業大学建築学部建築学科
		みんなのみな憩いの場 一日野沢小学校跡地広場再考計画-
	吉田 豊	日本大学生産工学部建築工学科
		転変の段 一ベッドタウンの駅前シンボルの再生-
	四方 千尋	東京理科大学理工学部建築学科
		路地に広がるこどもの居場所